
言葉にまぎれたうやむや世界。 第三部

ランタン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

言葉にまぎれたうやむや世界。 第三部

【Nコード】

N1020E

【作者名】

ランタン

【あらすじ】

この学校は、どこかおかしい 海藤成実が抱いていた小さな違和感。それが明らかになった時、彼女は一つの契約をした……。そして、達也と由香も知らなかった『守護者』と生徒会の秘密があった。

プロローグ 契約事項

一年ほど、前の話になる。学校の『秘密』の鍵であるその人は、私に微笑みかけて尋ねた。

「君が欲しいものは、何？」

今までずっと、予感めいたものはあった。この学校はどこかおかしい。そして、私がそれを知った時には全てが手遅れだった。助けなどない。先生なんか当てにならない。この事は普通の生徒に教えるわけにはいかなかった。何故なら、それこそが、一番恐るべき事態だから。逆に言えば、簡単に話すことができるような内容ならば、この学校はこんなに異常な状況に陥ったりしなかった。私の友達の中でも、この事を知っている子はいない。皆、私のことは普通の、ちょっと不思議なクラスメイトくらいにしか思っていないようだから。私にとってこれ以上ありがたい誤解はないので、特に訂正することもしなかった。

もともと、目立つ存在でもなかった私には、欲しいものなら山のようにあった。権力、知識、財産。だけど、その中のどれよりも欲しいものが、あった。

「私の欲しいものは……」

入学して、ずっと感じていた違和感。今、私はその奥へと入ろうとしているということを感じて、思わず身震いする。

「スリル」

まだ、足りない。どこか麻痺した私の感覚では、これくらいのスリルは退屈でしかない。それもこれも『日常』になりつつあるのだ

から。

「じゃあ、君にあげるよ」

その人は、微笑んだまま恐ろしいことを口にした。

「君が卒業するまで、退屈させない。君がどういう状況にあっても、地の果てまで追いかけてあげる」

それが契約だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1020e/>

言葉にまぎれたうやむや世界。 第三部

2011年1月16日15時48分発行